特集

トラック運送業界とSDGs

エスディージーズ

第5回

持続可能なトラック運送業界の実現を目指して

昭和陸運㈱のSDGs推進への取り組み

本特集では、SDGs（持続可能な開発目標）とトラック運送業界の関わり方について紹介します。

今回は、広島県福山市の昭和陸運㈱（荒木栄作代表取締役）の取り組みを紹介します。

「広く社会に貢献していく」企業として以前から環境問題への対応等を推進

草野　貴之
管理本部経営企画室室長

昭和陸運㈱は、運送事業・物流事業を展開しているほか、不動産、商事、サービス、アパレル、映像制作などS事業11社からなるSRホールディングス㈱（荒木栄作代表取締役CEO）の中核企業となっている。

同社は、昭和29年に荒木社長の父親である先代社長が創業以来、「新たな物流文化を創造し続け広く社会に貢献する」を企業理念として、企業活動を発展させてきた。それに併せて、同社では以前から環境問題への対応や労働環境の整備などの取り組みを推進してきた。

「SDGsという概念が生まれ、社会全体がSDGsに注目していく中で、SDGsで掲げられた様々な取り組みがこれまでの当社のビジネスや取り組みとリンクする部分が多くあったため、当社においてもSDGsに繋がるこれらの取り組みを引き続き推進していくことにしました」（草野貴之管理本部経営企画室室長）

「働きやすい職場環境づくり」を強化　雇用創出を通じて地域への貢献を目指す

それでは、同社におけるSDGsに向けた取り組みをみていきたい。

まず、「環境保全に関する取り組み」（「開発目標7：エネルギー」、「開発目標9：インフラ、産業化」、「開発目標13：気候変動」など）では、同社では平成18年からグリーン経営認証を取得しているほか、日々の運行の中でも効率的な配車や空車回送の削減、アイドリング削減などを実施している。また、物流倉庫の屋上に太陽光パネルを設置したほか、営業車としてのハイブリッド車導入なども進めている。

また、「従業員の福利厚生の充実」（「開発目標10：不平等」など）では、従業員の労働環境整備の観点から、30年に新本社屋を竣工。運送会社らしからぬお洒落な内装の館内にはジャズが流れており、従業員たちは快適な環境で日々職務に当たっている。

平成30年には、従業員にとっての働きやすさを追求した新社屋が竣工した

ドライバーや倉庫従事者のユニフォームを刷新した

新しいユニフォームは、「スポーティ・スタイリッシュ・シンプル」をコンセプトに、同社のグループ企業であるアパレルメーカー（作業服）が手がけたもの。新ユニフォームでは安全性や機能性、デザインを追求したという。

さらに、今年3月からは、SDGsへの新たなアプローチとして、使い終わったユニフォームなどを他社が運営するリサイクル事業に提供する取り組みもスタートさせている。

さらに、人材の多様性を確保するための「ダイバーシティの推進」（「開発目標5：ジェンダー」、「開発目標10：不平等」など）では、同社が本社を構える福山市は、中国・四国地方では広島市、岡山市、松山市、倉敷市に次ぐ5番目の人口規模を誇るものの、令和2年の市の人口は46万930人（国勢調査）と、昭和15年以来の減少となった。今後、人口減少が加速度的に進行することで、企業活動の縮小や生活利便性の低下、地域の魅力の低下といった悪循環が生じ、さらなる人口減少を招くおそれがある。※

同社は昭和29年の創立以来、地元に密着した運送会社として事業を展開。21世紀初頭までは、従業員規模20人程度の運送会社であった。しかし、創業者である先代社長に代わって就任した荒木社長は、運送事業から物流事業へと進出して売上高を増加させるとともに、学生時代に東京でデザインを学んでおり、クリエイティブな仕事に興味があったこともあり、映像制作会社を傘下に収めた。荒木社長はその後も様々な事業に参入し、現在の同グループの姿となったのである。

「地域の活性化なくして、地域で事業を展開している当社が事業を継続することはできないと考えます。地域の人口減少が危惧される中にあって、地元で生活する多様な人材が活躍できる場を提供していくことは、地域の活性化に繋がるとともに、SDGsの理念にも合致するのではないでしょうか」（同）

※出典＝「福山みらい創造ビジョン　人口減少対策アクションプラン2022」（福山市企画財政局企画制作部企画政策課）

地元企業を学ぶ「人材育成事業」にも協力　事業活動を通じて地域との共生を図る

福山市では平成30年に「新たな人口減少対策」を策定するとともに、令和元年からは同対策に関する提言――といった、企業の課題解決に向けた提言も行われ、若い学生だからこその新鮮な提案が数多く挙げられたという。

また、3年には、福山市立一ツ橋中学校1年生による、生徒と企業が交流を深めながら学習を進めるプログラムにも協力。中学生たちが同社に直接アプローチし、同社における企業活動やSDGsの取り組みなどについて学習した。

「学校教育でSDGsを学んでいる学生たちは、社会貢献度が高い企業に対して好感を抱いたり、就職先に選ぶ傾向があるという調査結果もあります。当社のSDGsに関する取り組みを知っていただくことで、運送業界の価値を認識していただくとともに、運送業界を将来の就職先の選択肢のひとつとして捉えていただけるようになればいいのではと感じています。そして、地元企業である当社に就職することで、地域活性化にも貢献できるようになるのではないかと思っています」（同）

同社では、地元の学生を対象とした「グローカル人材育成事業」にも協力している

最後に、同社における今後のSDGsに向けた取り組みについて尋ねた。

「SDGsは、運送事業者にとって決して難しい取り組みではないと考えます。SDGsへの取り組みを進めていく上で最も大切だと考えるのは、従業員一人ひとりがSDGsに対する意識を高め行動すること、そして個々の身近な行動からSDGsを考えていくことでしょうか。当社では、年始に実施する安全大会の中で、従業員に対して効率的な輸送のあり方やダイバーシティなど、SDGsに関連する事柄を説明し、従業員のSDGsへの意識を高めています。一方で、地域社会との共生もサステナブルな（持続可能な）取り組みだと考えています。この福山の地で何十年も企業活動を継続できたのは、地域社会の皆様のご支援のおかげであることは間違いありません。当社と一緒に、持続可能な社会について考えてくれた地域の若者たちが、これから社会の主役になっていくことにも大きな可能性を感じています。今後も地域の学生との協働学習や交流の機会があれば、積極的に参加させていただきたいと考えています」（同）

（取材協力）昭和陸運㈱
管理本部経営企画室
草野貴之室長

企業プロフィール

社名	昭和陸運㈱
本社所在地	広島県福山市引野町4-1-8
代表者	代表取締役　荒木　栄作
創業	昭和29年
設立	昭和48年
資本金	1,000万円
社員数	95人
車両数	84台